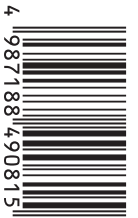


貯 法：遮光した気密容器、室温保存
 使用期限：外箱に記載の期限内に使用すること。

承認番号	22000AMX00248000
薬価収載	2008年6月
販売開始	2001年7月



外用副腎皮質ホルモン剤

※ **エクラー plaster 20 μ g/cm²**
ECLAR[®] PLASTER 20 μ g/cm²
 (デプロドンプロピオン酸エステル plaster)

【禁忌】 (次の患者には使用しないこと)
 (1)細菌・真菌・スピロヘータ・ウイルス皮膚感染症及び動物性皮膚疾患 (疥癬、けじらみ等)
 [これらの疾患が増悪するおそれがある。]
 (2)本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
 (3)鼓膜に穿孔のある湿疹性外耳道炎
 [穿孔部位の治療の遅延及び感染のおそれがある。]
 (4)潰瘍 (ペーチェット病は除く)、第2度深在性以上の熱傷・凍傷
 [皮膚の再生が抑制され、治癒が遅延するおそれがある。]
 (5)血清の浸出している病巣及び特に発汗の強い部位
 [皮膚感染症の誘発、悪化、また発汗による汗疹のおそれがある。]

【組成・性状】

販 売 名	エクラー plaster 20 μ g/cm ²
有 効 成 分	デプロドンプロピオン酸エステル
含量(1cm ² 中)	20 μ g
添 加 物	エステルガムHG、クロタミトン、ジブチルヒドロキシトルエン、スチレン・イソプレン・スチレンブロック共重合体、ポリイソブチレン、流動パラフィン、その他1成分
剤 形 ・ 性 状	無色透明～淡黄色透明の特異なおいのある膏体を支持体に均一に展延し、膏体面をポリエステルフィルムで被覆した貼付剤である。
1枚の大きさ	7.5cm×10cm
識 別 コード	HP3102T (アルミ袋及びポリエステルフィルムに記載)

【効能・効果】

湿疹・皮膚炎群 (進行性指掌角皮症、ピダール苔癬を含む)、虫さされ、痒疹群 [蕁麻疹様苔癬、ストロフルス、結節性痒疹 (固定蕁麻疹)を含む]、乾癬、掌蹠膿疱症、肥厚性癬痕・ケロイド、扁平紅色苔癬、慢性円板状エリテマトーデス、環状肉芽腫

【用法・用量】

患部を軽く洗浄し、よく乾燥させた後、本品を膏体面被覆ポリエステルフィルムに付着させたまま適当な大きさに切り取り、ポリエステルフィルムを取り除き、患部に膏体面を当てて貼付する。本品は、貼付後12時間又は24時間毎に貼りかえる。必要な場合、夜間のみ貼付する方法もある。なお、貼りかえるときにも患部の洗浄及び乾燥を行う。

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- (1)皮膚感染を伴う湿疹・皮膚炎には使用しないことを原則とするが、やむを得ず使用する必要がある場合には、あらかじめ適切な抗菌剤 (全身適用)、抗真菌剤による治療を行うか、又はこれらとの併用を考慮すること。

- (2)大量又は長期にわたる広範囲の使用により、副腎皮質ステロイド剤を全身的投与した場合と同様な症状があらわれることがある。
- (3)本剤の使用により症状の改善がみられない場合又は症状の悪化をみる場合は使用を中止すること。
- (4)症状改善後は、できるだけ速やかに使用を中止すること。

2. 副作用

エクラー plaster 20 μ g/cm²においては、使用成績調査等を実施していない。
 なお、デプロドンプロピオン酸エステルのテープ剤において報告された副作用 (承認時及び再審査終了時までの調査)は、910例中24例 (2.64%)で、その主なものは毛細血管拡張9件 (0.99%)、接触皮膚炎5件 (0.55%)、皮膚萎縮4件 (0.44%)、毛のう炎4件 (0.44%) 等であった。
 なお、本項には頻度が算出できない副作用報告を含む。

(1)重大な副作用

緑内障、後のう白内障 眼瞼皮膚への使用に際しては眼圧亢進、緑内障を起こすことがあるので注意すること。

大量又は長期にわたる広範囲の使用により、後のう白内障、緑内障等の症状があらわれることがある。

(2)その他の副作用

種類	頻度	5%以上又は頻度不明	0.1~5%未満
皮膚の感染症 ^{注1)}		皮膚の真菌性 (カンジダ症、白癬等)・細菌性 (伝染性膿痂疹、毛のう炎、癬等) 感染症、ウイルス感染症 [密封法 (ODT) の場合、起こりやすい]	
その他の皮膚症状		長期連用により、ステロイド瘰癧 (尋常性瘰癧に似るが、白色の面皰が多発する傾向がある)、ステロイド酒齶・口囲皮膚炎 (顔面に紅斑、丘疹、毛細血管拡張、痂皮、鱗屑を生じる) ^{注2)} 痒痒、疼痛、ヒリヒリ感、潮紅、紫斑、水疱、び爛等の皮膚刺激症状や汗疹、過乾燥、亀裂、出血、貼付部位のムレや悪臭、皮膚の悪化	長期連用により、ステロイド皮膚 (皮膚萎縮、毛細血管拡張)、魚鱗癬様皮膚変化、紫斑、多毛、色素脱失等 ^{注2)}
過敏症 ^{注3)}		皮膚の刺激感、発疹等	
下垂体・副腎皮質系機能		下垂体・副腎皮質系機能の抑制	

注1) このような症状があらわれた場合には、適切な抗真菌剤、抗菌剤等を併用し、症状が速やかに改善しない場合には、使用を中止すること。

注2) このような症状があらわれた場合には徐々にその使用を差し控え、副腎皮質ステロイドを含有しない薬剤に切り替えること。

注3) このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

3. 高齢者への使用

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、大量又は長期にわたる使用に際しては特に注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への使用

妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対しては大量又は長期にわたる広範囲の使用を避けること。
[妊婦に対する安全性は確立していない。]

5. 小児等への使用

乳児・幼児及び小児では、発育障害をきたすおそれがある。

【薬効薬理】

抗炎症作用

マウスのオキサゾロン及び塩化ピクリル誘発接触皮膚炎に対して、アレルギー性の炎症反応を抑制した。¹⁾

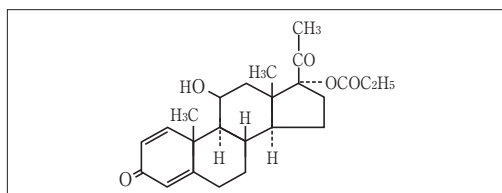
またラットのカラゲニン誘発浮腫、ヒスタミン誘発血管透過性亢進及びマウスのクロトン油誘発耳介浮腫に対して非アレルギー性の炎症反応を抑制した。²⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：デプロドンプロピオン酸エステル
(Deprodone Propionate)

化学名：(+)-11β,17-dihydroxy-1,4-pregnadiene-3,20-dione 17-propionate

分子式：C₂₄H₃₂O₅ (分子量：400.51)



性状：白色～帯黄白色の結晶性の粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがあり、味はない。クロロホルムに極めて溶けやすく、1,4-ジオキサソランに溶けやすく、メタノール又はエタノール(95)にやや溶けやすく、ジエチルエーテルに溶けにくく、水にほとんど溶けない。

融点：225～230℃

【包装】

エクラープラスタ-20 μg/cm²：(7.5cm×10cm)×50

【主要文献】

- ※ 1)久光製薬社内資料(薬理作用に関する資料)
- 2)大野洋光他：基礎と臨床 23 (15) 5735 (1989)

※※【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求ください。

久光製薬株式会社 学術部 お客様相談室
〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号
フリーダイヤル 0120-381332

FAX. (03) 5293-1723

受付時間／9：00～17：50 (土日・祝日・会社休日を除く)